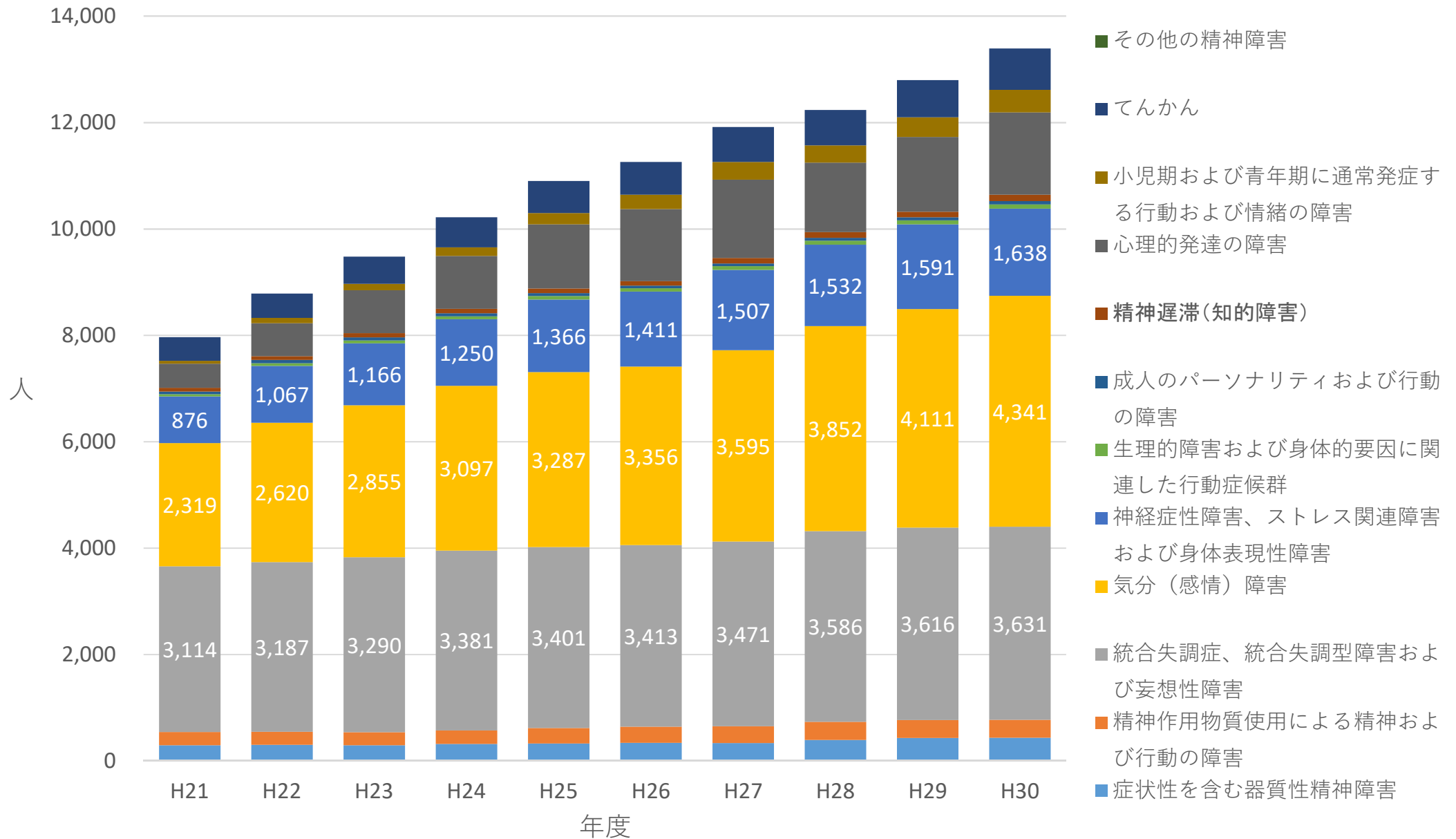


岡山市の精神保健医療の現状

令和元年度岡山市精神保健福祉審議会
令和2年3月25日
岡山市

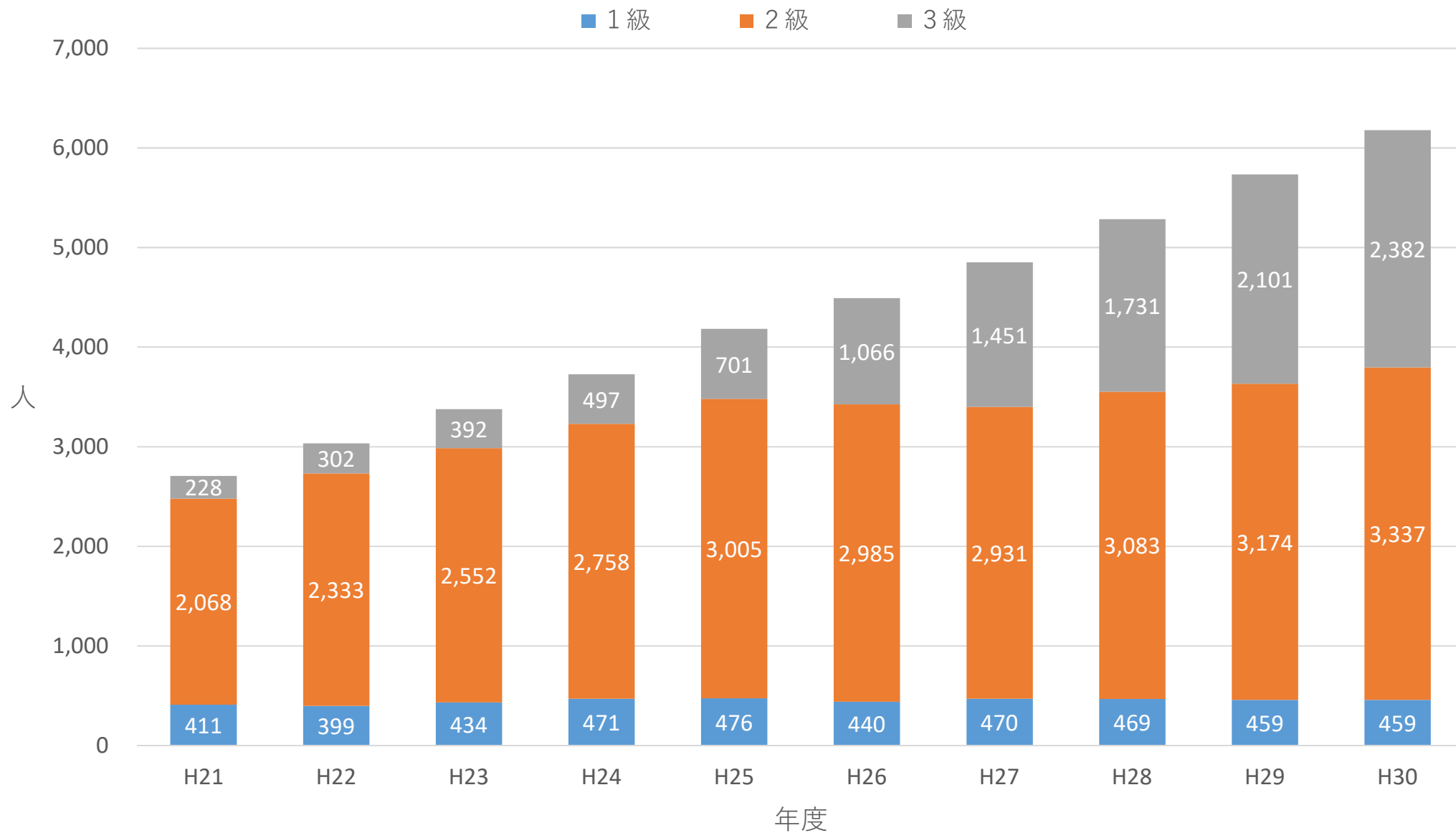
自立支援医療費（精神通院）の支給認定状況

・認定者数は年々増加傾向にあり、疾病分類別に見ると最も数の多い「気分（感情）障害」の認定者数が大きく増加している。



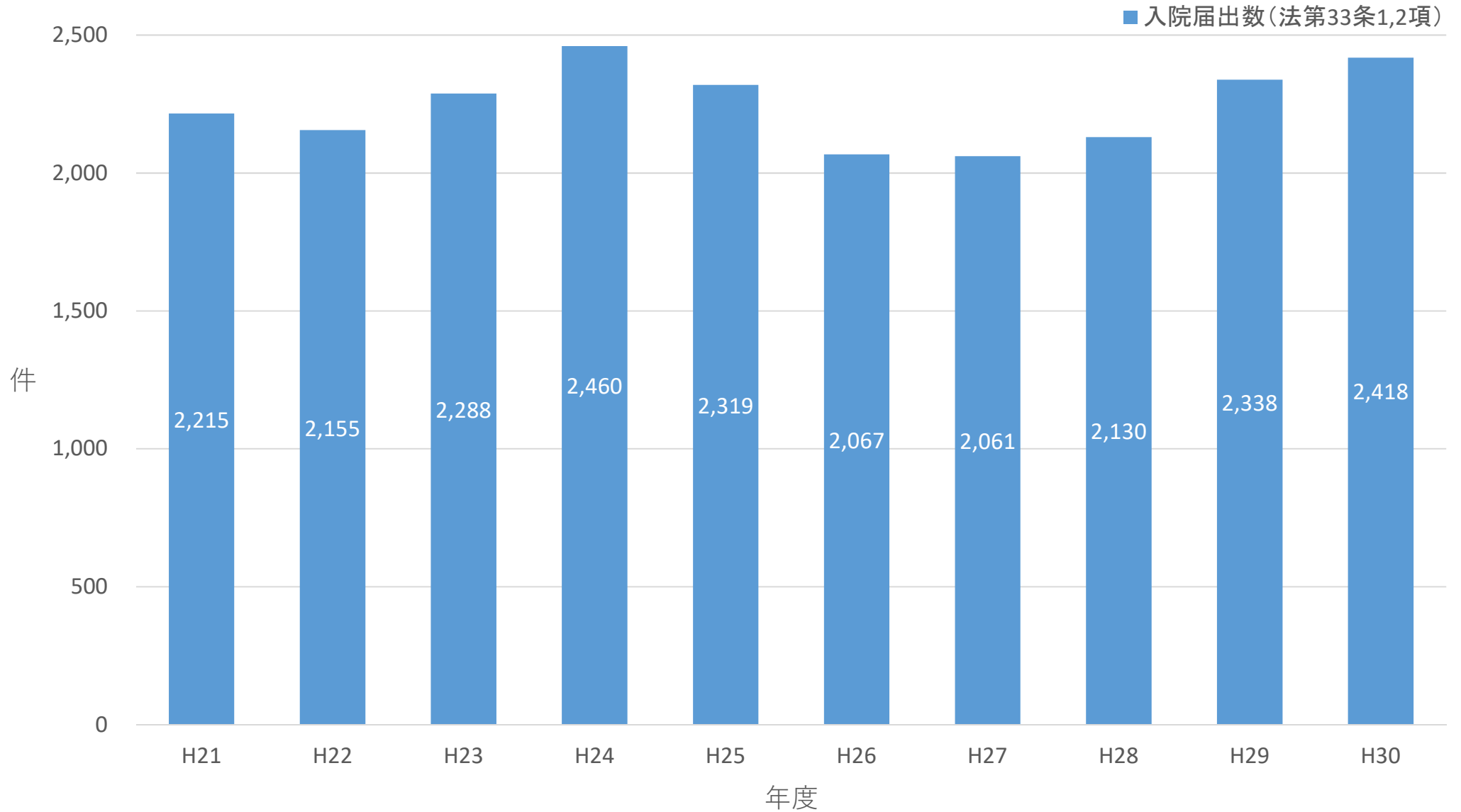
精神障害者保健福祉手帳所持者の状況

- ・手帳所持者数は年々増加傾向にあり、特に3級の所持者数が大幅に増加している。



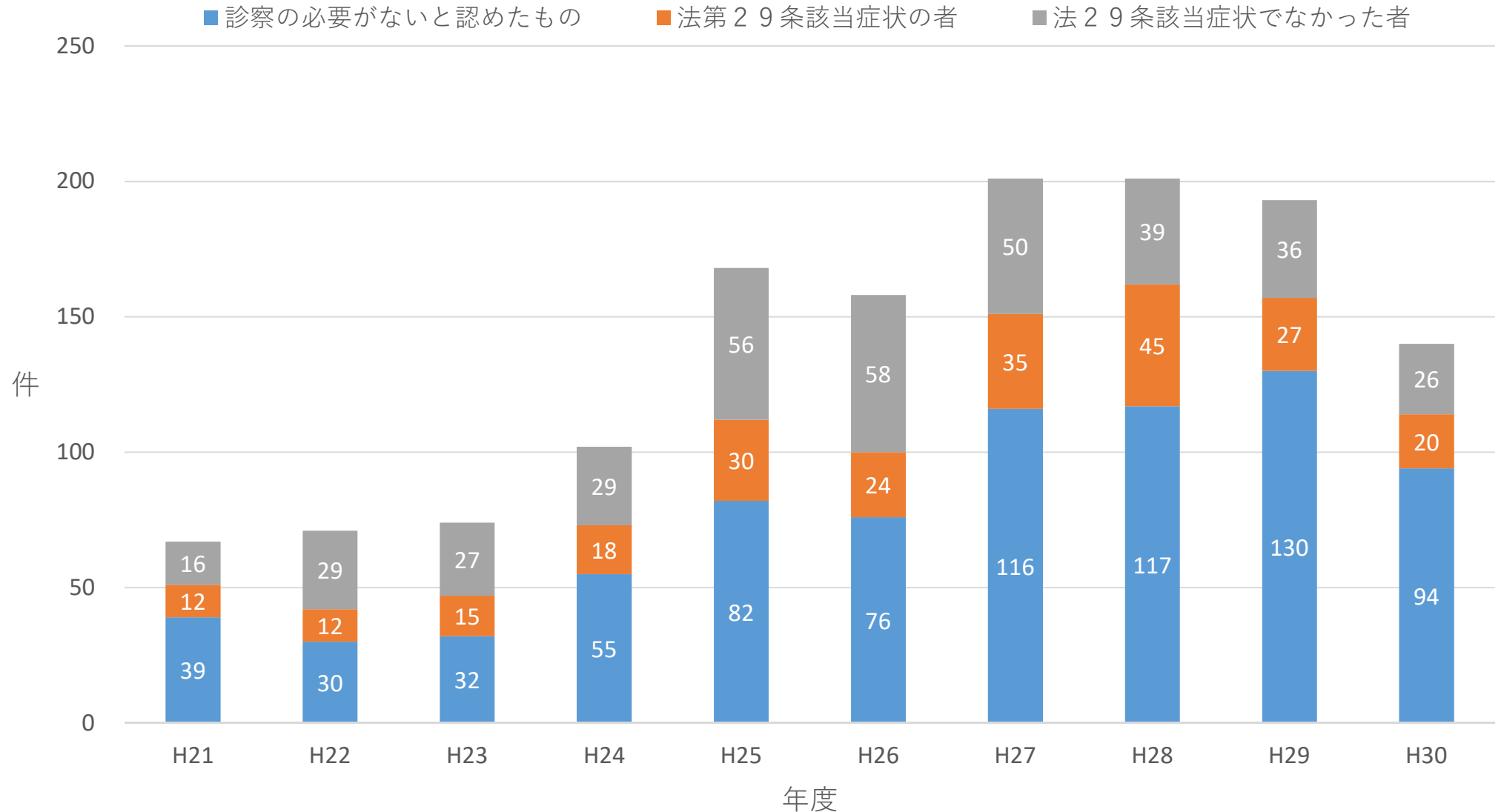
医療保護入院の状況

・年度により増減があるが、H26年度以降はやや増加傾向にある。



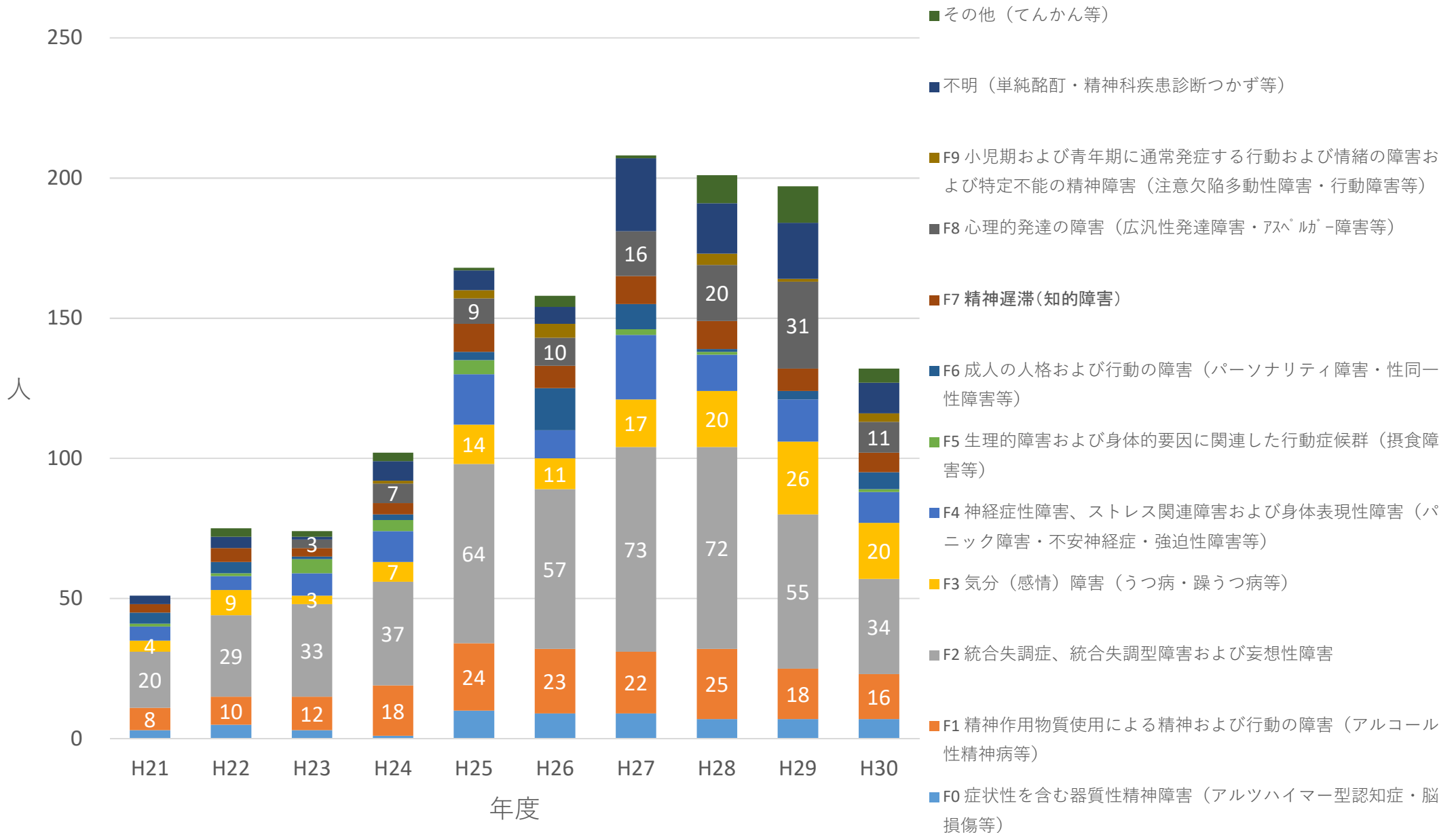
措置入院の状況（通報等の処理件数）

- ・ H27年度以降、通報届出数は200件前後で推移していたが、H30年度は140件に減少している。これは、H30年3月に、厚労省から「措置入院の運用に関するガイドライン」が発出され、警察官通報の趣旨や、既に対象者が帰宅した後の事後通報の取扱いなどについて一定の整理がなされた効果が出ているものと考えられる。
- ・ また、ガイドライン発出後は「診察の必要がない」というケースが大きく減少している。



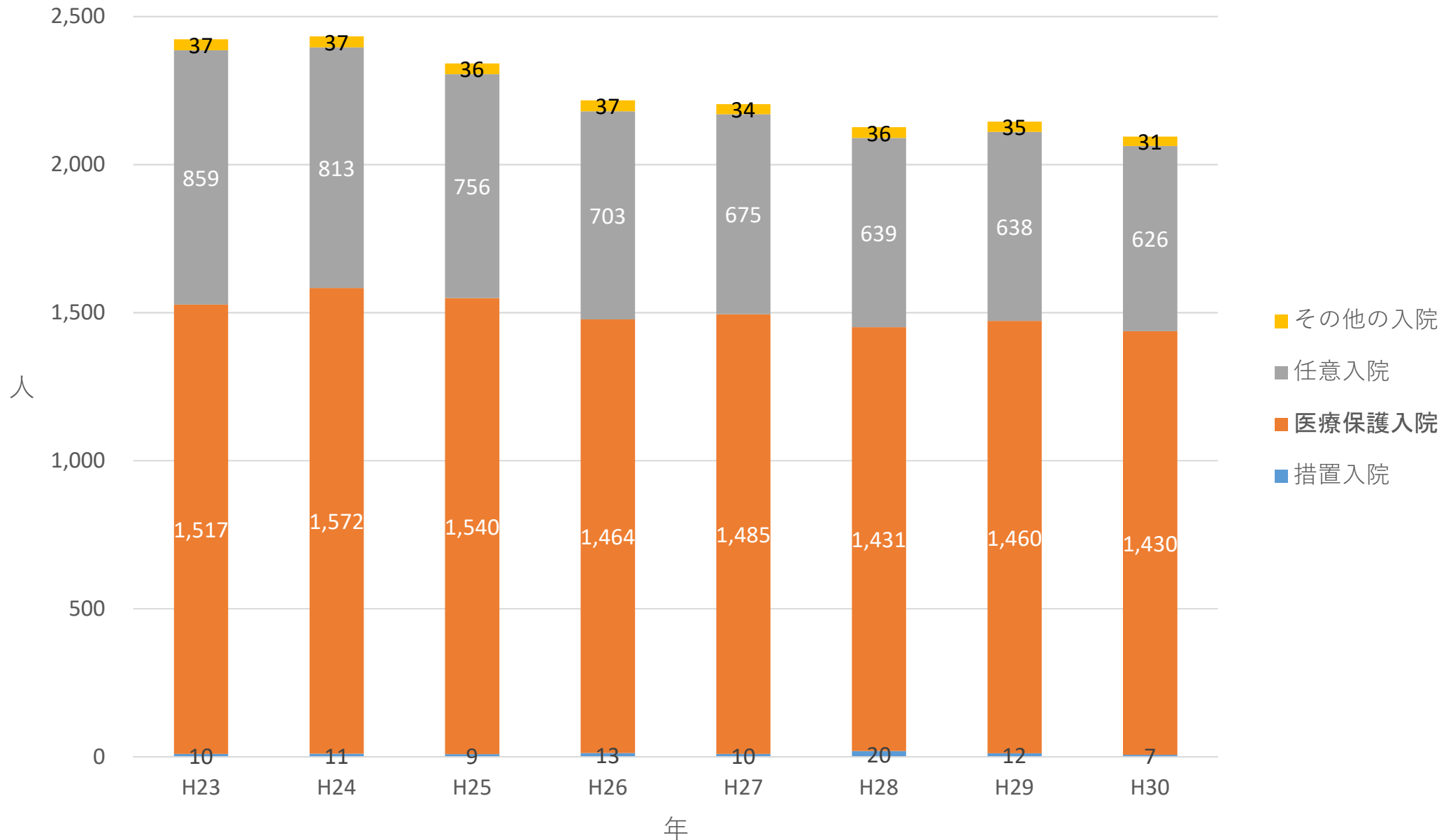
措置入院の状況（被通報届出者の主病名）

・ F2の統合失調症・妄想性障害は一貫して大きな割合を占めており、また、近年はF3の気分（感情）障害、F8心理的発達の障害が上昇傾向にある。



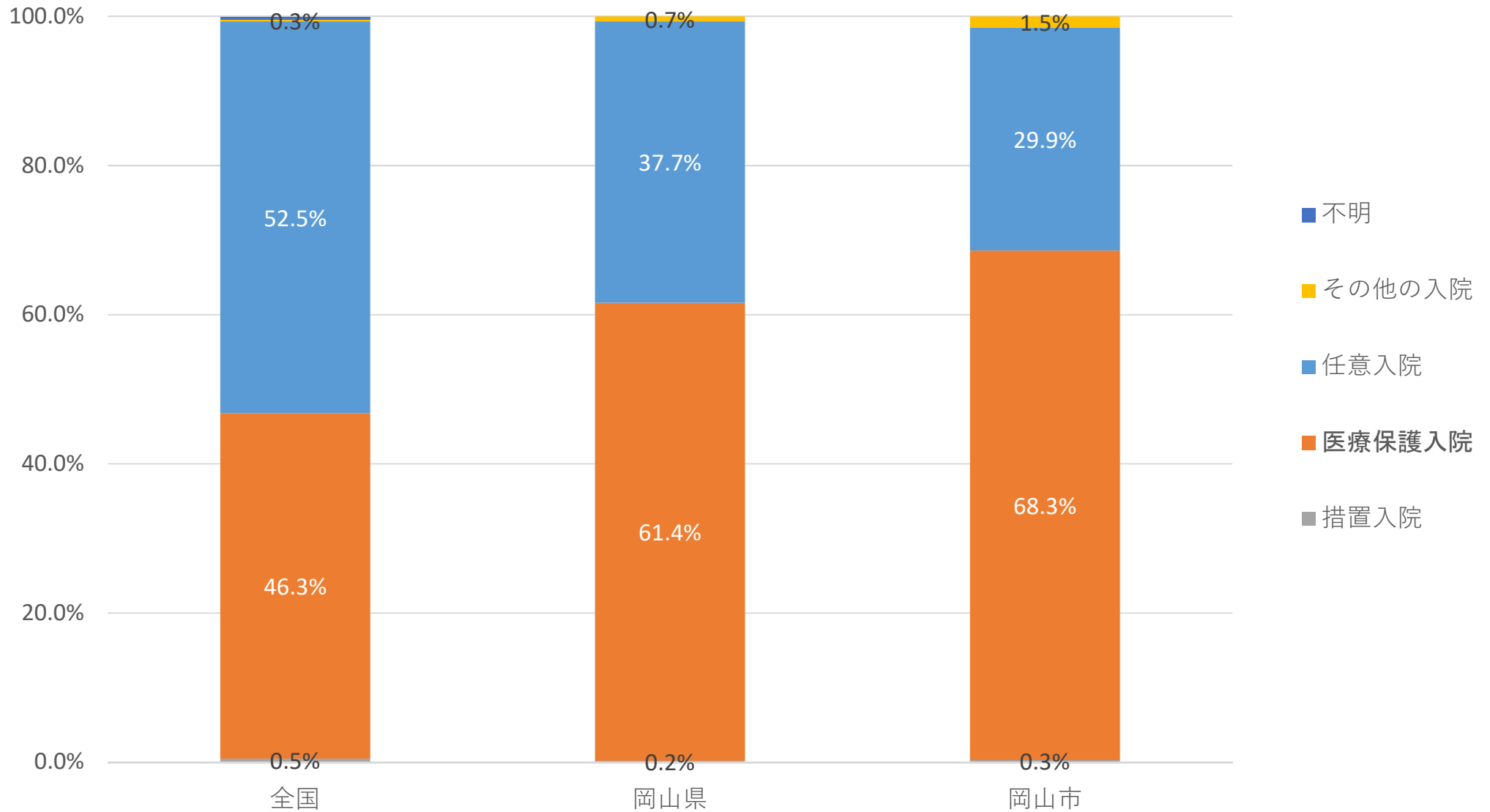
岡山市の入院形態別在院患者数の推移（各年6月30日現在）

・岡山市として長期入院患者の地域移行等の取組を進めていることもあり、患者数の総数は減少傾向にある。



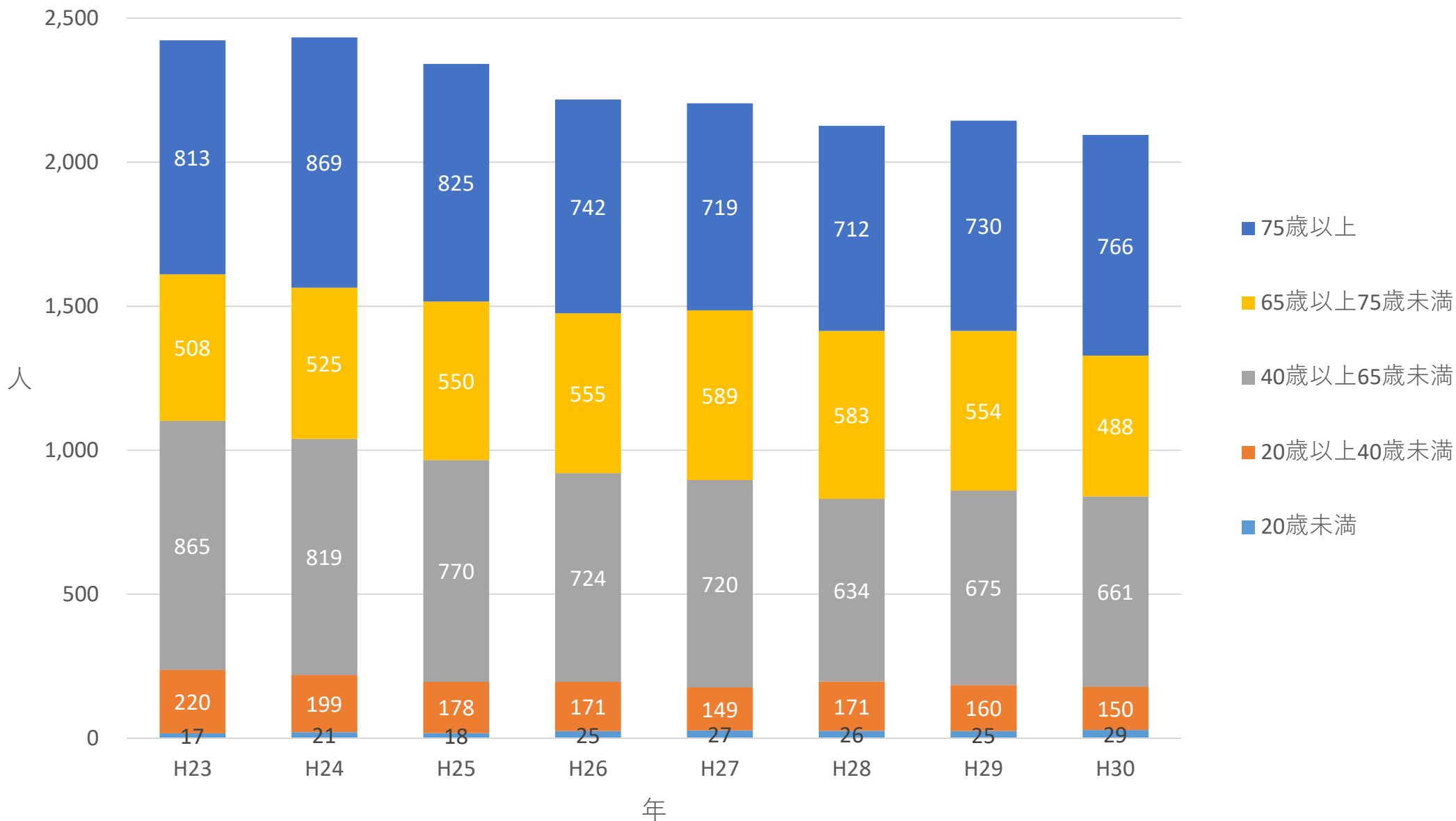
H30年6月30日現在の在院患者の入院形態別構成割合

・岡山市は全国、岡山県と比べて医療保護入院者の割合が高い傾向にある。



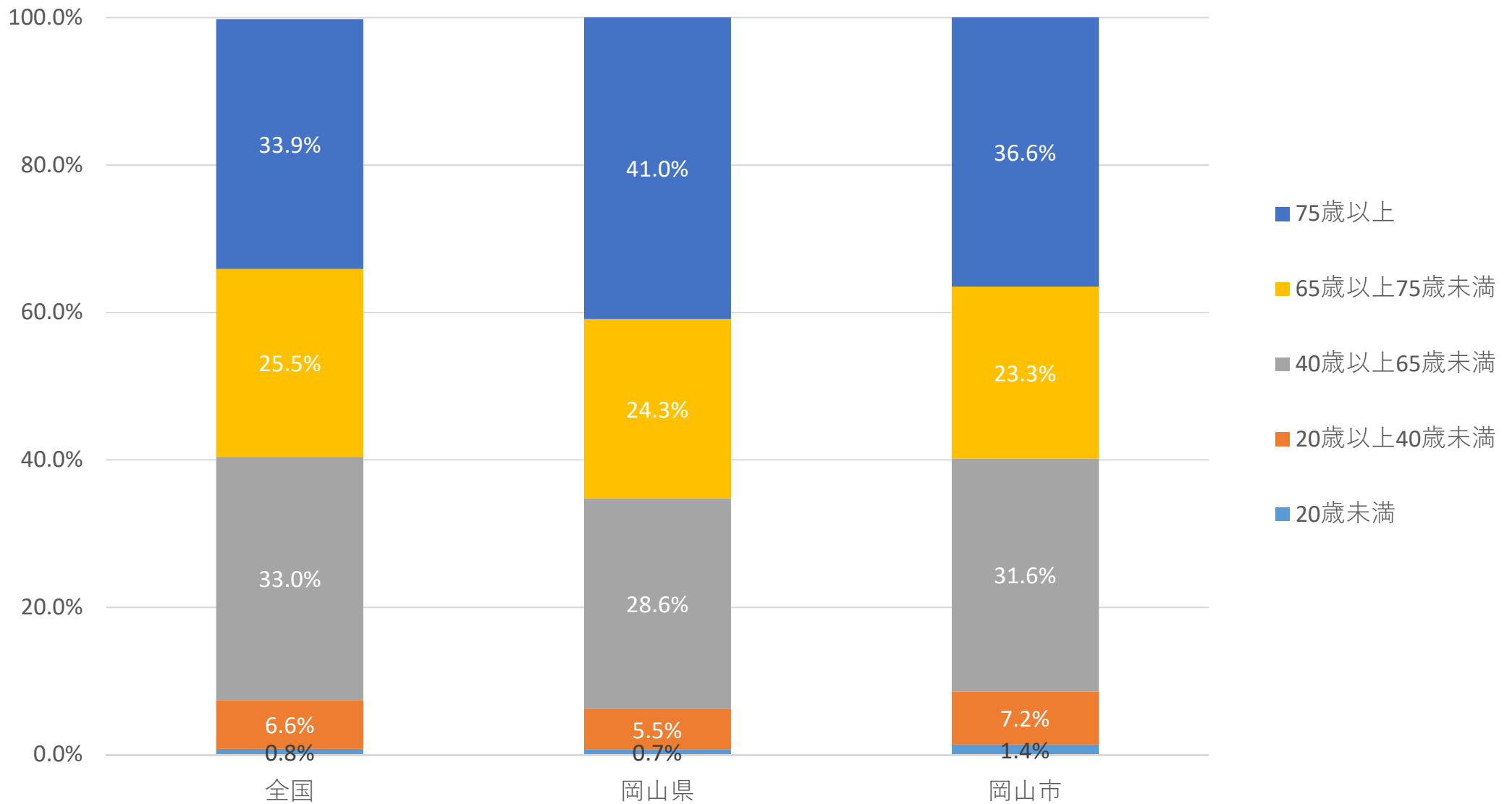
岡山市の年齢階級別在院患者数の推移（各年6月30日現在）

・65歳以上の高齢者が全体の約6割を占めており、少しずつではあるが高齢者の割合が高まりつつある。



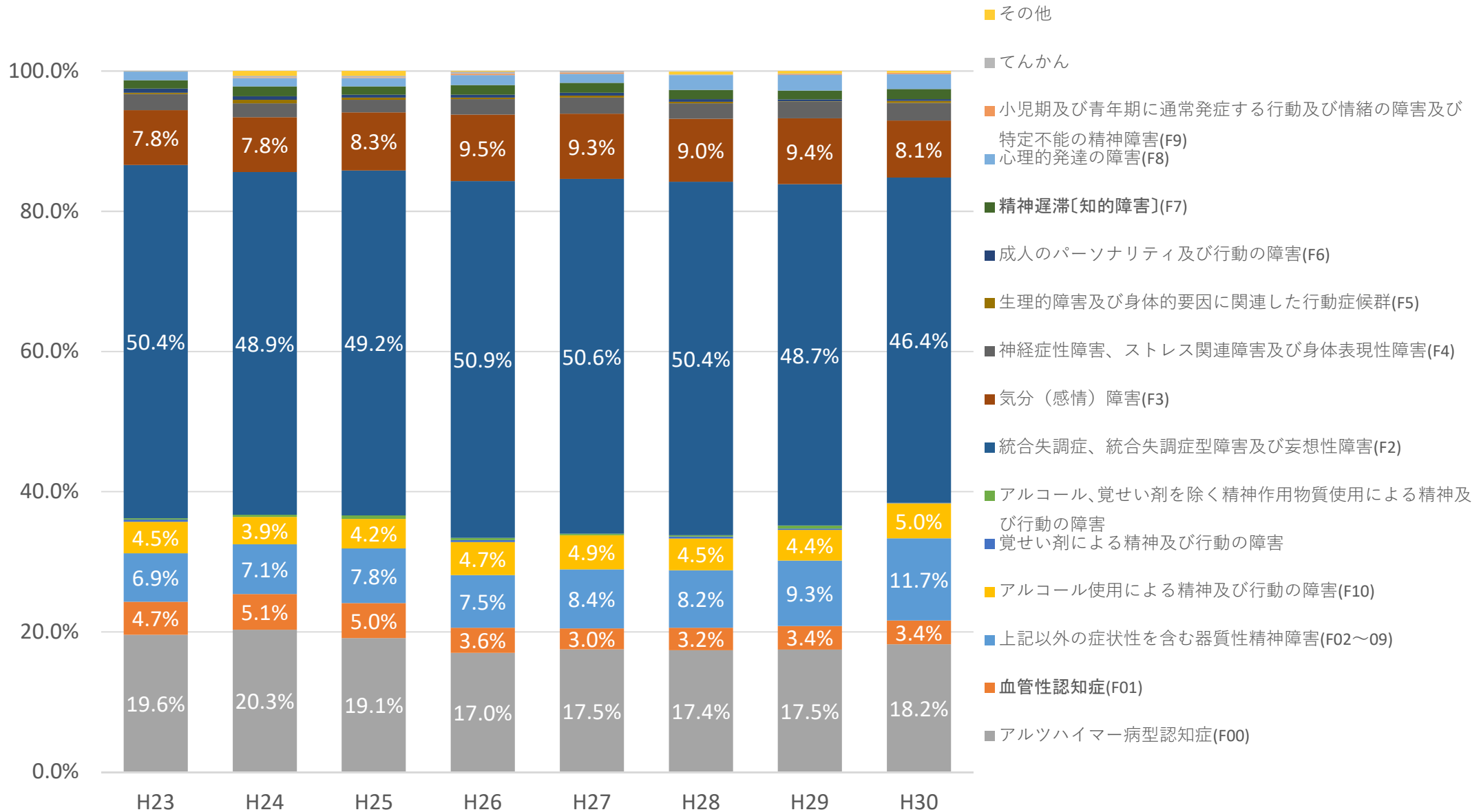
H30年6月30日現在の在院患者の年齢階級別構成割合

・岡山市の65歳以上の高齢者の割合は全国とほぼ同様の傾向を示しており、岡山県が若干高い状況にある。



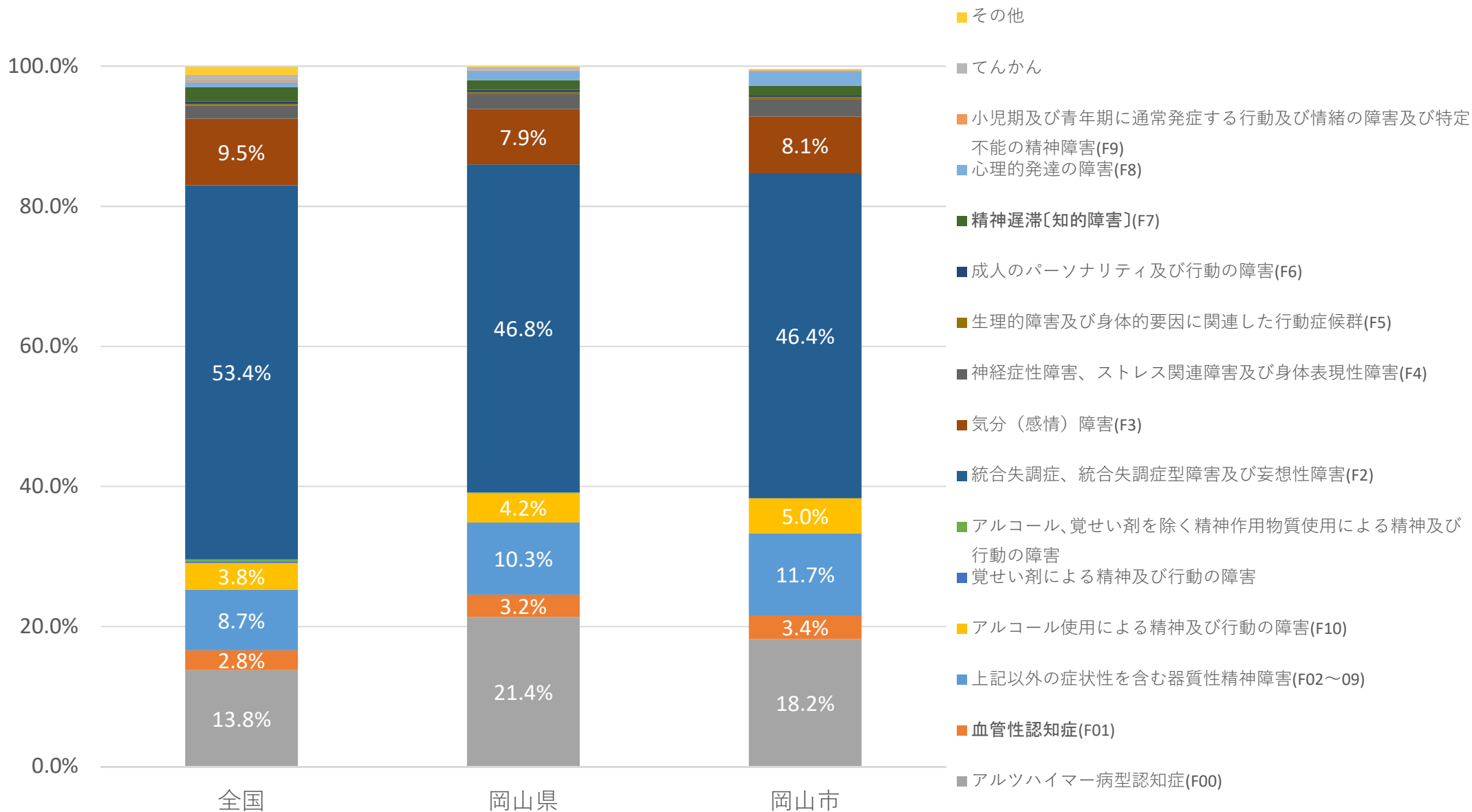
岡山市の在院患者の疾病分類別構成割合の推移（各年6月30日現在）

- ・最も割合の高い疾病は「統合失調症」で、約50%を占めている。2番目が「アルツハイマー型認知症」、3番目が「気分（感情）障害」となっている。
- ・年度ごとの構成割合に大きな変化はなく、ほぼ横ばいで推移している。



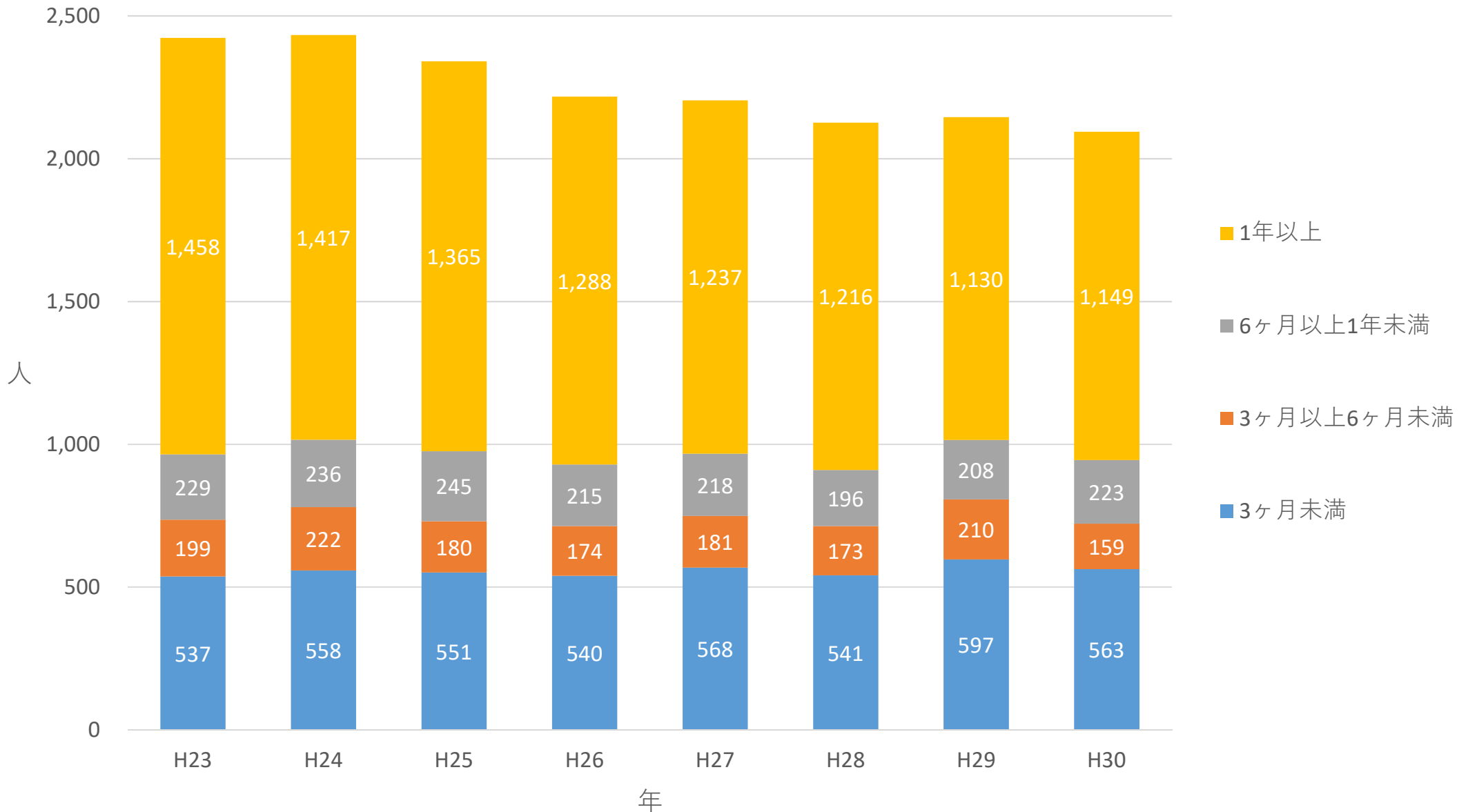
H30年6月30日現在の在院患者の疾病分類別構成割合

・全国と比較すると、「統合失調症」の割合が5%ほど低く、「アルツハイマー型認知症」が5%ほど高い状況にある。要因としては、認知症病床数の多さ（岡山市は人口1人あたりの認知症病床数が指定都市の中で3番目に多い）が影響しているものと考えられる。



岡山市の在院期間別在院患者数の推移（各年6月30日現在）

- ・ 1年以上の長期入院患者数が減少傾向にあり、H30年は1,149人となっており、H23年比で約21%減少している。



H30年6月30日現在の在院患者の在院期間別構成割合

- ・全国と比較すると、1年以上の長期入院患者の割合は、全国より6.4%低くなっている。
- ・長期入院患者数は、入院患者の地域移行が進んでいることを示す一つの指標であり、地域移行の取組が浸透してきているものと考えられる。

